

# 中学校・第2学年・外国語科「My Dream」①

## 育成を目指す資質・能力

大阪府提供

学級の仲間に、自分の将来の夢について、理由とともに分かりやすく伝えることができる。（話すこと [発表] イ）

## ICT活用のポイント

- 単なる「練習」のための「ICT活用」ではなく、**言語活動につなげるための「ICT活用」**を指導者が意識する。
  - － 生徒に自分の課題に応じて練習できるツールとして活用させ、「**個別最適な学び**」の**充実**につなげる。
  - － 指導者が「学習者用デジタル教科書」を編集、アレンジして教材を作ること、生徒たちの「**個別最適な学び**」のさらなる**充実**につなげる。
- 生徒が、「どのような視点に着目しながら言語活動に取り組めばよいか」を意識しやすくして、「**協働的な学び**」の質を向上させる。
  - － 生徒の成果物を共有するだけでなく、指導者によるコメントや添削されている英文や情報も共有することを心がける。

言語活動

(スピーチ 1 回目)

練習

(単語、本文音読)

練習

(リテリング)

言語活動

(スピーチ 2 回目)

## 事例の概要

### 【○生徒の学習過程】（▶は指導の留意点）

- 指導者の学生時代に抱いていた「将来の夢」を聞く。
  - ▶本単元の中心となるスピーチ（What's your dream?）のモデルとして生徒に聞かせるとともに、指導者のスピーチ内容に関連したやりとりを生徒たちとも行う。
- 単元のゴールや、ゴールに向かう学習過程、スピーチの評価について見通しをもつ。
- 言語活動（スピーチ録画 / 1 回目）をペアで行う
- 本文の内容を理解した後、単語の発音練習等を、各自で行う【**個別最適な学び**】
- 本文のリテリングをペアで行う。
  - ▶自分のスピーチをよりよいものにするために本文をリテリングしている、という意義を踏まえさせる。リテリングを行う目的（自分のスピーチをよりよいものにするため）を生徒に伝える。
  - ▶「学習者用デジタル教科書」×「ICT端末」で編集したPicture Cardで、習熟度別でリテリングに取り組ませる。【**個別最適な学び**】
  - ▶単にリテリングを行うのではなく、本文にあるスピーチがどのような展開になっているかに気付かせるとともに、どのような展開なら相手により分かりやすく伝わるかを意識させながら取り組ませる。
- 言語活動（スピーチ録画 / 2 回目）をペアで行う。
  - ▶1 回目のスピーチと比較して違いに気付かせ、内容が充実していたり、分かりやすい展開になっていたたりすることを実感させる。

# 中学校・第2学年・外国語科「My Dream」②



単語、本文音読の練習をしている場面

生徒A：「この文、3つの単語が繋がって1つの発音に聞こえるぞ」

生徒B：「ここでは、特に注意する単語は2つだけだ。この単語に集中して練習しよう」



自分に適したレベルのPicture Cardを選んでリテリングの練習をしている場面

生徒C：「まずは確認のためにレベル1を試してみようかな」

生徒D：「自分には、暗唱はあまり必要ない。今日は、難しいけど今まで習った英語を思い出しながら、少しずつアレンジしていこう。…みんなの英語も参考になるなあ」



## 作成したPicture Card (イメージ)

学習者用デジタル教科書の挿絵



ICT端末を用いてテキストをレベル別に編集



「個別最適な学び」のさらなる充実

※吹奏楽部のメンバーとしてアンサンブルコンテストに出るために練習している教科書の挿絵

( ) sister plays the ( ).  
She ( ) to play it ( ) the ( ) ensemble contest.  
( ) ( ) students can play ( ).

※例) Level 1

- Level 1 : 本文の穴埋め形式
- Level 2 : キーワードのみ数語提示
- Level 3 : 挿絵のみ

## 「学習者用デジタル教科書」を編集したPicture Cardを活用した学習を通して、生徒の「個別最適な学び」を充実させる

- ◆ 「Level 1」(※左図参照)を選ぶ生徒の多くは、自分なりに英語で表現することにまだあまり自信がない。そのため、まずは本文を暗唱していこうとする。ただし同時に、自身の取組が、あくまでも「暗唱」であり、「リテリング」ではない、という意識ももっている。結果として、ある程度「できた」と感じたら、すぐに「Level 2」に進もうとする姿が見受けられる。
- ◆ 「Level 2」では少しずつ自分なりの表現を使い始める生徒が出てくる。「言語活動」の要素が出てくる段階である。生徒によってかなり表現の「幅」が出てくる。リプロダクションのような英語を残しながら、学級の仲間が使う英語を工夫して取り入れる姿も見受けられる。
- ◆ 「Level 3」では、かなり即興的に英語を使う生徒が出てくる。また自分なりに考えた英語を使って内容を膨らませる生徒もいる。その結果、流暢さが高くなる反面、どうしても正確さに影響が出てくる。その点を補おうと、英文を書いて正確性を考えるような姿も見受けられる。

【活用したソフトや機能】学習者用デジタル教科書、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト

# 中学校・第2学年・外国語科「My Dream」③

## 単元終了時における生徒の変容（「振り返りシート」より）

### 【単元の目標】

学級の仲間に、自分の将来の夢について、理由とともに分かりやすく伝えることができる。

### 「この単元の学習でできるようになったこと（できなかったこと）は何ですか」

- スピーチでは自分の夢を文の構成（導入→展開→結論）を考え、展開部分に理由を付け、教科書に書かれているスピーチを参考にしながら、自分の夢を具体的に説明することができた。ただ、少し日本語を使ってしまう部分があったので、もったいなかった。（生徒A）
- だいたい即興的に、自分の夢のことを話すことができました。量はあまり多くなかったのですが、もっと知っている言葉を増やしてより具体的にみんなに伝えたいな、と思います！分からない表現を調べることを少なくして、ある程度、みんなが分かるように伝えることもできました！（生徒B）

「自分なりに何ができるようになったか」を生徒自身が意識（メタ認知）する

・生徒は、自己調整している姿を意識（メタ認知）する

・指導者は、「主体的に学習に取り組む態度」についての「記録に残す評価」に生かすことができる

### 「なぜできるようになったと思いますか？／できなかったことを克服するために、どのような学習をしますか。」

- このスピーチをする時の発表の構成や、どういう単語を使えば相手に分かりやすいか、という視点で教科書の本文を何回も読んだから、スピーチがうまくできたのだと思う。また、日本語の「あー」や「えー」に対応する“Well...”, “Let’s see...”などの英語を練習して、言えるようにしていきたい。（生徒A）
- この単元で新しく出てきた文法事項で、表現の幅が少し広がったような気がします。即興的にスピーチをするのは難しかったです。その後の質疑応答も、何を聞かれているかすぐに分からないことがありました。復習として、もう一度デジタル教科書を使って、本文を読み込んでいこうと思います。（生徒B）